

15. ドイツ語の文構造 (1)

英語では文型を5つに分けて「基本5文型」として主語＋述語の構造に何が加わるかを考えますが、ドイツ語では人称変化をしている動詞、つまり定動詞の位置によって3つの文型に分類します。

1. 定形正置(主語＋述語)

主語の次に定動詞がおかれる構造で、普通の文、すなわち平叙文ではこれが基本です。

Ich bin Japaner.	「私は日本人です」
Er hat einen Wagen.	「彼は車を一台持っています」

2. 定形倒置(述語＋主語)

主語と定動詞がおきかわっている構造で、以下の2つの文でもちいられます。

a. 疑問文

Wer ist er?	「彼は誰ですか？」
Er ist Peter.	「彼はペーターです」
Haben Sie einen Wagen?	「あなたは車をお持ちですか？」
Ja, ich habe einen Wagen.	「はい、私は車を持っています」

ドイツ語の疑問文はすでに学んだように英語の *do* にあたる代動詞を必要とせず、*be* 動詞の疑問文と同じように主語と定動詞を逆にする、すなわち定形倒置だけで作ることができます。

b. 主語以外の文の要素が主語より前に置かれた文

Den Wagen hat er.	「その車なら彼が持っている」
Jetzt lerne ich Deutsch.	「いま僕はドイツ語を習っています」

b. の文の日本語訳をみてわかるように、ドイツ語ではいつでもいちばん文の先頭にあるものが強調されるため、日本語でもその部分に力点をおいて訳しています。そして定動詞はつねに2番目の位置におかれて、これが定動詞であることを目立たせるのです。これを「定動詞第2位の原則」といいます。この語順がドイツ語と英語でもっともことなるものだといえます。

しかし時には主語以外のものでもこの定形倒置をおこさないものがあります。並列接続詞といわれる次の4つの接続詞は文の先頭におかれても定形倒置とはなりません。それはこれらの接続詞はあってもなくてもほとんど文の内容には影響を及ぼさないものだからです。

並列接続詞

und	<i>and</i>	aber	<i>but</i>
oder	<i>or</i>	denn	<i>for</i> 「なぜなら」

Ich esse und er trinkt.	「私は食べそして彼は飲む」
Ich esse, aber er trinkt.	「私は食べるが、しかし彼は飲む」
Trinken Sie Tee oder Kaffee?	「紅茶かコーヒーを飲みますか？」
Sie kommt nicht, denn sie ist krank.	「彼女は来ない、なぜなら病気だから」

aber のみは英語の *however* のように文中におくこともあります、意味はわかりません。

Ich trinke Tee, er trinkt aber Kaffee.

「私は紅茶を飲む、彼はしかしコーヒーを飲む」

3. 定形後置(主語+…述語)

従属接続詞を文頭において作る文のことを英語では従属節あるいは複文といいますが、ドイツ語では副文といいます。それは従属節に従える文を英語では主節というのに対して、ドイツ語では主文ということから来ています。

この副文のなかでは定動詞は必ず文のいちばん最後におかれ、これを定形後置といいます。この定形後置については後ほど学びますから、ここでは例文をあげるだけにしておきます。

Ich weiß, dass er Japaner ist. 「私は彼が日本人であることを知っている」

4. 否定文について

否定文も英語と異なり、*do* を必要としません。*not* に相当する *nicht* という副詞を文中におくだけで否定文ができます。しかし英語なら *do* の直後に *not* をおいてやればよいのにたいして、ドイツ語では *do* が無いだけに、どこに *nicht* をおけばいいかが問題となります。

否定文をつくるには次の2種類のやり方があります。

a. 全部否定

文の内容をすべて否定するもので、全文否定ともいいます。この場合は原則として文末に *nicht* をおきます。

Er kommt heute nicht. 「彼は今日来ません」

Ich kaufe das Buch nicht. 「私はその本を買いません」

しかし、定動詞と密接に結びついていると考えられる文の要素(*sein*「…である」や *werden*「…となる」という動詞とともに述語を構成している形容詞などや、定動詞と熟語をなすもの)がある場合には *nicht* はその要素の前におかれます。

Sie ist nicht krank. 「彼女は病気ではありません」

krank という形容詞は *ist* という定動詞とともにもちいられるため、述語形容詞といって文の重要な要素となっています。

Ich komme heute nicht nach Haus. 「私は今日は家に帰りません」

この文の *kommen* と *nach Haus* は熟語として「帰宅する」という意味でもちいられています

b. 部分否定

文中の一成分だけを否定する場合は、原則として *nicht* は否定する文成分の直前におかれます。

Er fährt heute nach Berlin. 「彼は今日ベルリンへ行く」

この文のいずれかの部分を否定するときは、次のような位置に *nicht* をおきます。

「彼」を否定したい場合

Nicht er fährt heute nach Berlin. 「今日ベルリンへ行くのは彼ではない」

「今日」を否定したい場合

Er fährt nicht heute nach Berlin. 「彼がベルリンへ行くのは今日ではない」

「ベルリンへ」を否定したい場合

Er fährt heute nicht nach Berlin. 「彼が今日行くのはベルリンではない」